

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 4 月 30 日
報告者	廣田夏実
助成団体名 (所属団体名)	特定非営利活動法人さんまクラブ
団体住所	〒 528-0022 滋賀 <small>都道府県</small> 甲賀市水口町梅が丘 5-2
団体電話番号	0748 — 76 — 3414
代表者 (助成対象者)	理事長 谷村徳幸
助成対象事業	土曜さんまクラブ
事業（助成）期間	2020 年 7 月 1 日 ~ 2021 年 6 月 30 日
事業費総額	1,533,853 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

毎週土曜日（第一土曜、夏休み期間を除く）13：30～16：30 に開催している遊び場提供事業。小学校 1 年生～6 年生までが対象であるが、中学生もお手伝いとして参加している。毎回プログラムを決めて活動しており、ものづくり、遠足、クッキング、科学実験など、家庭ではできない活動に取り組んでいる。どのプログラムでも参加する子どもたちに制限は設けておらず、障がいを持った子ども、健常者、様々な家庭事情の子どもなど、すべての子どもが一緒に過ごすことを大切にしている。

開催日	プログラム	参加人数	内障がい者人数	備考
7月11日	いろいろなゼリー作り	20人	3人	
7月18日	タイダイTシャツ作り	50人	6人	
7月25日	永源寺へ行こう	0人	0人	台風の為中止
8月29日	いろいろなアイス作り	28人	4人	
9月12日	光る泥団子	42人	5人	
9月19日	夜の森を探検しよう	28人	8人	
9月26日	カロム大会	20人	5人	
10月10日	たこ焼きやさんごっこ	12人	2人	
10月17日	草木染め	27人	5人	
10月24日	親子で石窯パン作り	47人	6人	
10月31日	児童公園でひたすら遊ぼう	20人	6人	
11月14日	ペンキでお絵描き・看板作り	16人	3人	
11月21日	焚火でバウムクーヘン作り	37人	8人	
11月28日	アイスアリーナへ行こう	38人	9人	
12月12日	クリスマスリース作り	28人	3人	
12月19日	プラ板アクセサリー作り	28人	3人	
1月16日	カブラ	6人	2人	
1月23日	いろいろなタルト作り	31人	6人	
1月30日	いろいろな中華まん作り	21人	7人	
2月13日	高学年お泊り会	7人	2人	
2月20日	ベビーカステラ作り	30人	5人	
2月27日	希望が丘公園でたこあげ	17人	4人	
3月13日	ホットケーキタワー	31人	5人	
合計	開催回数：23回	584人	107人	
開催日	プログラム	参加人数	内障がい者人数	備考
4月17日	デコレーションケーキ作り	29人	5人	
4月24日	児童公園でひたすら遊ぼう	17人	4人	
5月8日	石窯でピザづくり	15人	2人	
5月15日	巨大シャボン玉作り	24人	5人	
5月22日	光る泥団子	49人	4人	
5月29日	鹿深夢の森で遊ぼう	26人	3人	
6月12日	いろいろなゼリー作り	33人	5人	
6月19日	タイダイTシャツ作り	54人	4人	
6月26日	高間みずべ公園に行こう	32人	5人	
合計	開催回数：9回	279人	37人	

3、事業成果

2020年7月～2021年6月：32回開催、参加人数863人、内障がい者数144人
平均参加人数26.9人

1日あたりの平均参加人数が2019年度22.8人だったのが、2020年度（2020年7月～2021年6月の1年間）26.9人と大幅に増加した。コロナ禍で子どもたちが様々な制限をされ、障がいを持っている子どもはより一層外出自粛を強要されている中、子どもにとって一番必要な「遊び」を提供できる場としてさんまクラブの活動が必要とされたのではないかと感じる。外で思いっきり走りまわったり、子ども同士で話しあったり、笑いあっておやつを食べたり、子どもが子どもらしくいられる当たり前にできることが、様々な施策によってできなくなっていること、子どもが必要としていることが何であるかを活動を通して改めて感じることができた。

保護者からは、どこにも遊びにいけないから・・・や様々な体験をさせてくれる、家ではできない等、プログラムに対して称賛や驚きの声があった。プログラムを心待ちにしてくれている声も多く大変な状況の中であったが、やりがいを感じながら活動に取り組むことができた。

4、今後の課題など

今後も子どもが子どもらしく過ごすことができる楽しい“居場所”づくりを継続していく。

また、今年度も何人か参加していたが、不登校の中学生・高校生が必要とされる場所、頼りにされたり、承認される“居場所”として、学校には行けないけど、さんまクラブで小さい子どもの面倒なら見れると、外に出る子どもたちの勇気を大切にしながら、いつでも受け入れられる場所として活動していきたい。

法人の目標である、障がいの有無に関わらずすべての人が分け隔てなく過ごすこと、インクルーシブ社会の実現に向けて、今後も活動を続けていきたい。